

平成25年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

吉備の里山にお出かけ ～自然のこと・生き物たちのこと～

通年実施

1. 事業の目的(趣旨・ねらい)

当施設が地域の自然体験指導者の養成及び活躍の場となるとともに、地域の子どもたちに自然体験を通じて自然への関心を育む機会を提供するため、吉備高原の自然に関心の高い方を中心に「吉備高原」自然の会を立ち上げ、研修会を開催したり、観察会を企画・運営したりする。

2. 事業の概要

(1) 日程

「吉備高原」自然の会 定例会

- ① 4月 6日(土), ② 4月28日(日), ③ 5月12日(日),
④ 6月 8日(土), ⑤ 7月14日(日), ⑥ 7月27日(土),
⑦ 8月 3日(土), ⑧ 9月23日(月), ⑨10月20日(日),
⑩10月27日(日), ⑪12月14日(土), ⑫ 1月19日(日),
⑬ 2月22日(土), ⑭ 3月 1日(土)～2(日) 【研修会】

観察会

- ① 6月29日(土)(日帰) 「夏の虫を探そう」
② 7月21日(日)(日帰) 「絶滅危惧種ブッポウソウの観察」
③ 8月 3日(土)(日帰) 「トラップに集まる夜の昆虫観察」
④11月 9日(土)(日帰) 「ドングリと冬越しに向う昆虫の観察」

(2) 参加者

「吉備高原」自然の会：吉備高原の自然に関心のある方
14回合計 延89名

観察会：小学生とその家族(子供だけの参加は不可)

4回合計 延61名
(①16名, ②21名, ③16名, ④8名)

(3) 講師

研修会講師

山本 幹彦 氏(NPO法人当別エコロジカルコミュニティー)

観察会講師 ※全員「吉備高原」自然の会のメンバーである。

- ①木下 義久 氏
②黒田 聖子 氏(日本野鳥の会岡山県支部)

- ③木下 義久 氏, 伊藤 國彦 氏 (岡山の自然を守る会)
- ④坂本 憲彦 氏, 木下 義久 氏

(4) 企画・運営のポイント

□ 「吉備高原」自然の会の立ち上げについて

設立のきっかけは、吉備高原の自然に関心のある方からの「地域の方に自然の魅力を伝える観察会を実施したい」という提案である。

「地域住民が当施設の事業に参画することで、地域に根差した自然体験施設でありたい」という当施設の「思い」と、地域住民の「観察会を開きたい」という「思い」が重なることで、4月に会を立ち上げた。

□ 会員の募集

会員が知り合いに声をかけるという方法で進め、平成26年2月に実施された第1回岡山県環境教育ミーティングにブースを出展し、初めて公の場で会員募集をした。ブースでの説明や、募集用のチラシ作成、会の活動を紹介する資料（スライドショーや配布資料）作成も会員が担当できるようにした。

□ 観察会の企画

会員の専門性や興味を生かした観察会を企画するため、初年度となった今回は、定例会で内容と実施日を検討した。

□ 勉強会・研修会の企画

会員の興味・関心のある内容、専門性のある内容を他の会員と共に学ぶことができるように、持ち寄りのテーマを勉強できる機会を設けたり、必要と感じたテーマの研修会を企画したりした。

3. 活動の内容等

(1) 「吉備高原」自然の会

月1回の定例会（①～⑬：半日，⑭1泊2日）を実施し、当施設の自然を観察するとともに、その記録を残した。

さらに、観察会の内容や実施方法などを検討して企画したり、生物が観察しやすい環境を作ったり、会員の興味・関心・専門性を生かした勉強会や講師を招聘した研修会を実施した。

今年度の研修会では、北海道で活動しているNPO法人当別エコロジカルコミュニティから山本幹彦氏を講師に招聘し、「ネイチャーセンターの作り方」と題した研修を実施した。

この研修は、自然の会が今後こういった機能を地域で発揮できるか、そのためにはどんなことが必要なのかを学ぶことをねらいに実施した。

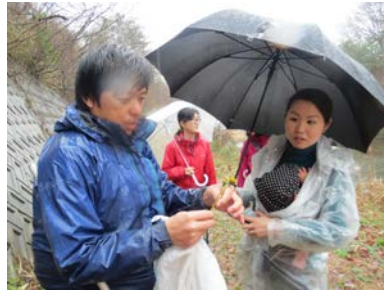
また、自然の会の会員以外の方にも声をかけて参加できるようにした結果、参加者は会員4名、一般参加5名の9名となった。

1日目の講義は、「みんなで作るネイチャーセンター」をテーマに、アメリカで取り組まれている地域の人々が自分たちのために運営している「ネイチャーセンター」の事例を紹介していただいた。

2日目は、「インタープリテーション入門」として、地域の自然や文化を伝える方法について講義と実習を通じて学んだ。



【定例会：ミーティング】



【定例会：フィールドの下見】



【ブッポウソウの巣箱の設置】



【ネズミ観察ゾーンの設置】



【みんなで作るネイチャーネット】



【インタープリテーション入門】

(2) 観察会

第1回「夏の虫を探そう」

6/29 (土)

時程	活動
9:30	受付
10:00	開会式
10:10	昆虫観察・採集
12:00	閉会式



【オオムラサキを発見】

第2回「絶滅危惧種ブッポウソウの観察」

7/21 (日)

時程	活動
9:30	受付
10:00	開会式
10:10	昆虫観察・採集
12:00	閉会式



【ブッポウソウの生態を説明】

第3回「トラップに集まる夜の昆虫観察」

8 / 3 (土)	
時程	活 動
18:40	受付
19:00	開会式
19:10	トラップの種類と作り方
19:30	トラップの観察
20:30	昆虫の解説
20:50	閉会式



【ライトトラップの様子】

第4回「ドングリと冬越しに向う昆虫の観察」

11 / 9 (土)	
時程	活 動
10:15	受付
10:30	開会式
10:40	昆虫観察・解説 (ビンゴシート使用)
12:00	昼食
13:00	ドングリクラフト
14:00	閉会式



【ビンゴシートの解説】

4. 成果・課題

(1) 成果

- 観察会参加者（保護者）の満足度
事業全体の満足度は100%であった。
- 「吉備高原」自然の会を立ち上げることができた。
自然について関心の高い方と共に、自然の会を立ち上げることができ、ほぼ月1回の定例会も実施することができた。
- 「吉備高原」自然の会が主体となって観察会を実施することができた。
今年度実施した観察会の内容を全て「自然の会」で企画することができた。
会員の専門性を生かして内容を検討し、当日の講師も会員が担当した。
- 指導者に実践の機会を提供するとともに、新たな指導者を養成することができた。
自然の会の会員が観察会で講師を経験することで、指導者としての実践の場を提供することができた。
その中で、初めて講師を経験した者は2名いる。そのうちの1名は、自然の会に参加したことがきっかけで、「自然の素晴らしさを人に伝える」ことに魅力を感じ、当施設の

指導者養成事業に参加し、そこで学んだことを生かして観察会で講師の役割を担った。

- 観察会に参加した方が、（地元の）自然を見直す機会となり、自然の魅力に新たに気付く機会となった。

第2回に参加者からは「ブッポウソウの巣箱がこんな身近にあるとは思いませんでした。家の近くに巣箱を設置したら来るかなあ〜と子どもたちと話していました。」といった感想をいただいた。

（2）課題

- 「吉備高原」自然の会のコアメンバーが少ない。

定例会に出席し、観察会の企画に積極的に関わる会員は、現在5名である。

来年度は、今年度で作成した資料などを活用し、会の活動内容を発信していくことで、興味・関心のある方に集まっていただき、コアメンバーを10名程度に増やす必要がある。

- 「吉備高原」自然の会の役割分担などの組織が確立していない。

現在は、観察会の主体は会員が担っているものの、会の運営のコーディネートは当施設の担当職員が担っている。コアメンバーの増員と並行して、会の役割分担や組織の確立を図る必要がある。

- 観察会の参加者が少ない。

今年度は初年度であったことから、会員の専門性の把握や予定の調整が事前にできていなかったため、その都度、観察会の日程と内容を検討した。そのため、地元小学校への広報が遅くなった。

次年度は、予め観察会の日程と内容を決め、年度当初に広報する必要がある。

担当：企画指導専門職 渡邊 剛志